

映画にもな
 ウィンチ・コ
 リストの家族
 る。だが、主
 では「三位一
 が幅を利かせ
 はカミである
 三つの位格に
 と説かれる。そ
 最近では、地
 が「三位一体
 れたりもする。

しかし本家
 は、キリスト
 めぐって何度
 かれ、さまざま
 がおこり、それ
 ナミズムを生ん
 でもその火種は
 けている。

ユニテリアン
 ントの一派で18

くす

「三位一体」をめぐって、キリスト教の歴史は、常に争い、分裂、統一を繰り返してきた。その争いの中心には、神の位格、神の性質、神の働きなど、さまざまな問題が絡み合っている。その中でも、最も重要な問題の一つが、三位一体の正統性である。三位一体とは、父、子、聖霊の三位が、同一の本質をもち、同時に存在し、互いに同等であるという教義である。この教義は、325年のニケヤ会議で初めて公式に採択された。しかし、その後もさまざまな異端が現れ、三位一体の正統性をめぐって争い続けた。その中でも、最も有名な異端が、アリウス派である。アリウス派は、父よりも子の方が低い位格をもち、聖霊は父と子から派生した存在であると主張した。この異端は、325年のニケヤ会議で弾圧された。しかし、その後もアリウス派の思想は、さまざまな形で復活し、現代まで影響を及ぼしている。現代のキリスト教では、三位一体の正統性をめぐって争いはほとんどなくなった。しかし、その背後には、さまざまな神学論争が隠れている。その中でも、最も重要な論争の一つが、三位一体の正統性をめぐっての論争である。この論争は、現代のキリスト教では、ほとんど忘れられている。しかし、その重要性は、現代でも変わらない。三位一体の正統性をめぐっての論争は、現代のキリスト教の神学を形作る上で、重要な役割を果たしている。その重要性を、現代のキリスト教は、改めて認識する必要がある。三位一体の正統性をめぐっての論争は、現代のキリスト教の神学を形作る上で、重要な役割を果たしている。その重要性を、現代のキリスト教は、改めて認識する必要がある。



「三位一体」をめぐって、キリスト教の歴史は、常に争い、分裂、統一を繰り返してきた。その争いの中心には、神の位格、神の性質、神の働きなど、さまざまな問題が絡み合っている。その中でも、最も重要な問題の一つが、三位一体の正統性である。三位一体とは、父、子、聖霊の三位が、同一の本質をもち、同時に存在し、互いに同等であるという教義である。この教義は、325年のニケヤ会議で初めて公式に採択された。しかし、その後もさまざまな異端が現れ、三位一体の正統性をめぐって争い続けた。その中でも、最も有名な異端が、アリウス派である。アリウス派は、父よりも子の方が低い位格をもち、聖霊は父と子から派生した存在であると主張した。この異端は、325年のニケヤ会議で弾圧された。しかし、その後もアリウス派の思想は、さまざまな形で復活し、現代まで影響を及ぼしている。現代のキリスト教では、三位一体の正統性をめぐって争いはほとんどなくなった。しかし、その背後には、さまざまな神学論争が隠れている。その中でも、最も重要な論争の一つが、三位一体の正統性をめぐっての論争である。この論争は、現代のキリスト教の神学を形作る上で、重要な役割を果たしている。その重要性を、現代のキリスト教は、改めて認識する必要がある。三位一体の正統性をめぐっての論争は、現代のキリスト教の神学を形作る上で、重要な役割を果たしている。その重要性を、現代のキリスト教は、改めて認識する必要がある。